

令和7年度

全国学力・学習状況調査

結果と分析について

藤沢市教育委員会



1 調査の概要と目的

令和7年4月14日（月）～17日（木）にかけて、令和7年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。この調査は、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的としています。

なお、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることが、国の調査実施要領で示されています。

2 実施状況

（1）調査内容

ア 児童生徒に対する調査

- ・教科に関する調査（小学校：国語、算数及び理科、中学校：国語、数学及び理科）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校に対する質問調査

- ・学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

（2）実施校数 小学校 35校 中学校 19校

（3）実施人数（単位：人）

	国語	算数・数学	理科	質問調査
小学校6年生	3,674	3,677	3,678	3,629
中学校3年生	3,200	3,199	3,196	3,201

3 平均正答率一覧表

（1）藤沢市立小学校平均正答率（単位：%）

	国語	算数	理科
全国（公立）	67	58	57
神奈川県（公立）	66	59	57
藤沢市（公立）	65	58	57

（2）藤沢市立中学校平均正答率（単位：%）

	国語	数学	理科 (平均IRTスコア)
全国（公立）	54	48	503
神奈川県（公立）	55	51	510
藤沢市（公立）	56	53	520

※ 全国の平均正答率は、国から提供されたデータの小数点第一位を四捨五入した数値である。

※ 「IRT」とは、正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論のこと。

※ 「平均IRTスコア」とは、IRTに基づいて500を基準にした得点で表すもの。

※ 令和7年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）では、「都道府県・指定都市別の平均正答率等については、ばらつきの状況は極めて狭い範囲内に収まっています。」と記載されている。

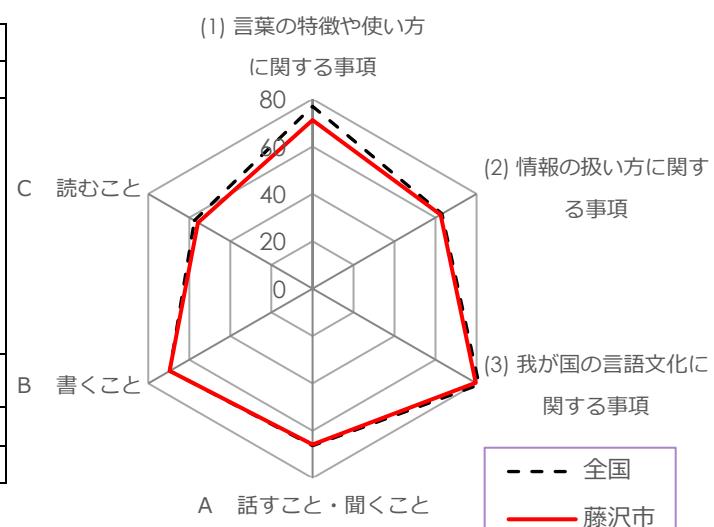
※平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）である。

4 教科に関する調査結果の分析 <小学校 国語>

①学習指導要領の分類別平均正答率 (単位: %)

分類	学習指導要領の観点					
	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
全国	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5
藤沢市	71.1	62.5	79.6	65.8	69.6	55.7
設問数	2	1	1	3	3	4

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果 (○: 概ね理解していると思われる点 ◇: 課題とみられる点)

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することはできている < B 書くこと >
- ◇ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある < C 読むこと >

③質問調査より

(単位: %)

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味関心や授業の理解度等	国語の勉強は好きですか	57.0	58.3
	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.6	82.8
	国語の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.3	90.4
	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	76.3	79.1

④課題に対する指導改善の手立て (参考: 国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」)

<読むこと> 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること

改善に向けては、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要です。目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるよう指導すると効果的です。

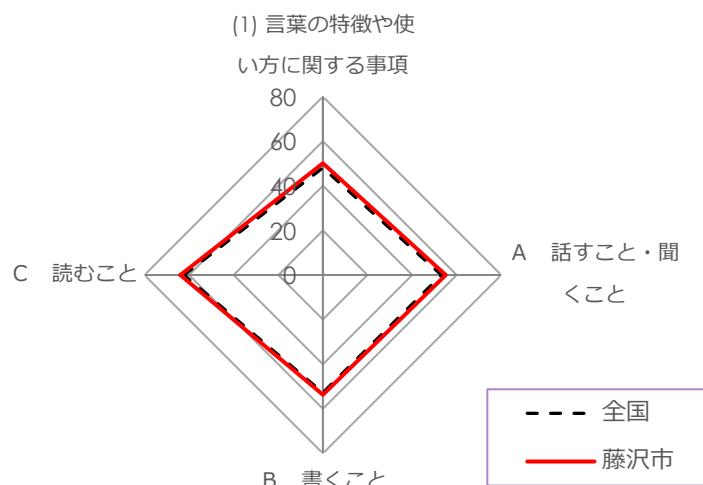
質問調査からは、「目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている」と捉えている児童が76.3%いることから、児童の取組を価値づけしながら、板書等により情報を整理したり、再構成したりするなど視覚支援しながら指導することも大切です。

4 教科に関する調査結果の分析 <中学校 国語>

①学習指導要領の分類別平均正答率 (単位: %)

分類	学習指導要領の観点					
	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			
(1) 方に関する事項	(2) 関する事項	(3) 化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	
全国	48.1		53.2	52.8	62.3	
藤沢市	50.1		55.1	53.7	63.9	
設問数	2	0	0	4	5	3

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果 (○: 概ね理解していると思われる点 ◇: 課題とみられる点)

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。<C 読むこと>

◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。<B 書くこと>

③質問調査より

(単位: %)

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味関心や授業の理解度等	国語の勉強は好きですか	52.8	57.9
	国語の授業の内容は分かりますか	76.5	77.0
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	86.3	88.3
	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	74.5	74.0

④課題に対する指導改善の手立て (参考: 国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」)

<書くこと> 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

改善に向けては、文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えた上で、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることや、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要です。接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導すると効果的です。

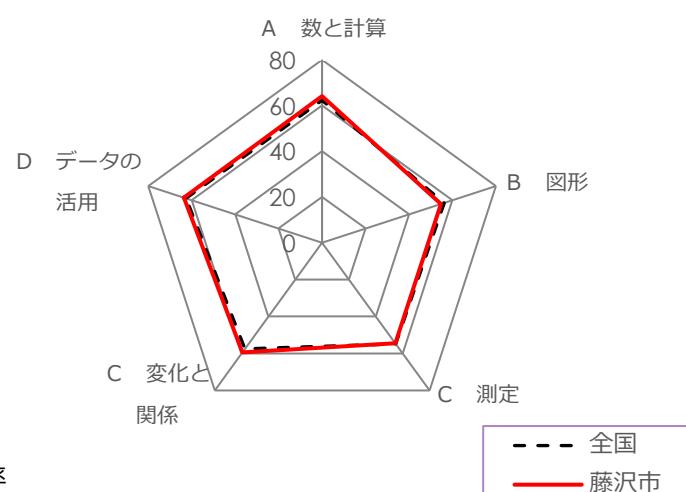
質問調査からは、「文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている」と捉えている生徒が多いことから、学習した知識を活用して実際に文章を書く活動を多く設定したり、読み手の反応を受け取ったりすることができるよう工夫して指導を行うことも大切です。

4 教科に関する調査結果の分析 <小学校 算数>

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：%）

分類	学習指導要領の領域				
	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 関係変化と	D のデータ活用
全国	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6
藤沢市	64.1	54.7	54.5	59.4	63.6
設問数	8	4	2	3	5

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 異分母の分数の加法の計算をすることは、比較的よくできている。<A 数と計算>
- ◇ 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかに課題がある。<C 変化と関係>

③質問調査より

(単位：%)

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味や授業の理解度等	算数の勉強は好きですか	57.2	57.9
	算数の授業の内容は分かりますか	78.3	78.3
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.6	91.6
	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	60.5	65.5

④課題に対する指導改善の手立て (参考：国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」)

<変化と関係> 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと

改善に向けては、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉るために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが大切です。例えば「10%増量」と書かれている増量後のハンドソープの量が、増量前のハンドソープの量の何倍になっているのかを数直線を活用して考え、説明する活動などをして効果的であると考えられます。

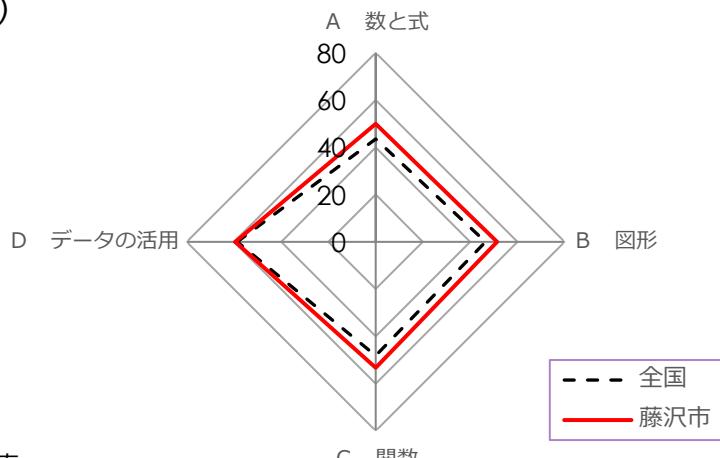
質問調査においては、「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という質問に対して、肯定的に答えた児童が全国と比較しても低いことから、問題の解決方法や解決過程に注目し、分かったことや理解したことをペアやグループで説明し合う活動をすることも効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析＜中学校 数学＞

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：%）

分類	学習指導要領の領域			
	A 数 と 式	B 図 形	C 関 数	D 活 用 デ タ の の
全国	43.5	46.5	48.2	58.6
藤沢市	49.9	51.4	53.3	59.4
設問数	5	4	3	3

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することは比較的できている。<A 数と式>
 ◇ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解することに課題がある。
 <D データの活用>

③質問調査より

(単位：%)

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味 関心や授業の理解度等	数学の勉強は好きですか	51.9	53.8
	数学の授業の内容はよく分かりますか	68.2	70.3
	数学の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	68.1	75.2
	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	58.7	58.6

④課題に対する指導改善の手立て (参考：国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」)

<データの活用> 相対度数の意味を理解したり、相対度数を用いてデータの分布の傾向を捉え説明すること

改善に向けては、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性と意味を理解できるよう指導することが大切です。その際、大きさの異なる2つ以上の集団のデータを比較する場面を設定し、目的に応じてデータの分布の傾向を的確に捉え説明できるような機会を設けるといった工夫が考えられます。

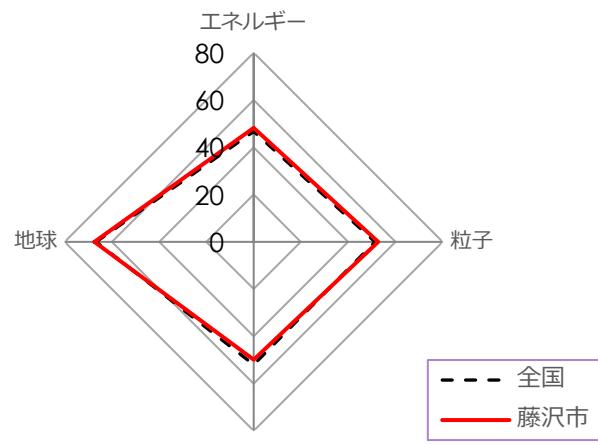
質問調査からは、「数学の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」という質問に対して、肯定的に答えた生徒が国と比べて少ない結果となりました。そのため、数学の学習において、数学的見方・考え方を働かせる機会を意図的に設定したり、日常の事象や社会の事象から問題を見出し解決したりする活動を通して、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる指導も効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析 <小学校 理科>

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：%）

分類	学習指導要領の領域			
	エネルギー	粒子	生命	地球
全国	46.7	51.4	52.0	66.7
藤沢市	48.2	52.7	49.9	67.4
設問数	4	6	4	6

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することは比較的できている。 <「地球」を柱とする領域>
- ◇ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識の活用に課題がある。 <「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域>

③質問調査より

（単位：%）

質問項目	藤沢市	全国
理科の勉強は好きですか	79.2	80.1
理科の授業の内容はよく分かりますか	87.7	88.9
理科の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	76.6	79.9
自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持つたり問題を見いだしたりしていますか	67.5	68.9

④課題に対する指導改善の手立て（参考：国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」）

<「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域>
学習内容を関係づけ、深く理解すること

改善に向けては、学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることが大切です。例えば、第3学年「A（4）磁石の性質」において、磁石に引きつけられる物と引き付けられない物を調べる際に、第3学年「A（5）電気の通り道」での実験結果を振り返りながら、物質の性質に着目して整理する学習活動が考えられます。

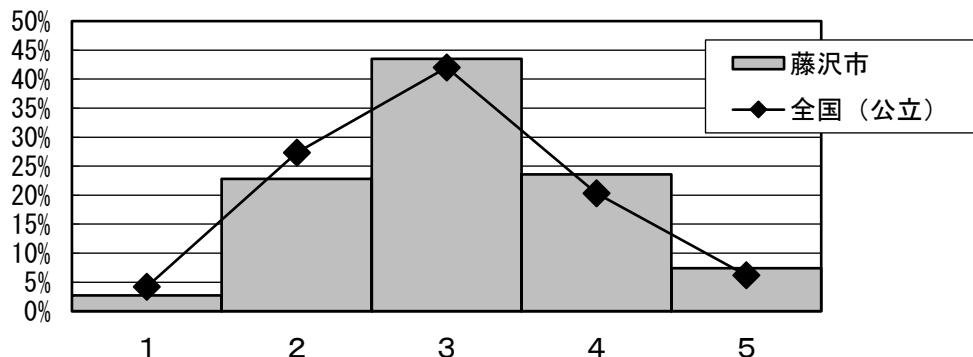
質問調査からは、「理科の授業の内容はよく分かる」と捉えている児童が87.7%いることから、学習したことを活用したり、これまでの学習から解決の方法を発想したりしながら、児童自ら問題を解決していく筋道を実感しつつ学習を進められるよう工夫することが大切です。

4 教科に関する調査結果の分析＜中学校 理科＞

① IRTスコア集計値

	スコア IRT
全国	503
藤沢市	520
設問数	22

② IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



※「IRT」とは「項目反応理論」といい、一人ひとりの問題の正誤状況を活用し、調査に取り組んだ人の学力を測定する方法。

※「平均IRTスコア」とは、IRTに基づいて500を基準とした得点で表すもの。

※「IRTバンド」とは、今回の調査における結果を5段階で示したもので、5が最も高い。例えば、IRTバンド「3」は、「問題の難易度」が「3」の問題を、おおよそ（約80%の確率で）正答することができる力があると推定できる。

③設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現することは比較的できている <「粒子」を柱とする領域>
- ◇ 大地の変化について時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題がある <「地球」を柱とする領域>

④質問調査より

（単位：%）

	質問項目	藤沢市	全国
学習に対す る興味	理科の勉強は好きですか	55.3	63.8
関心や授業の理解度等	理科の授業の内容はよく分かりますか	64.9	71.4
	理科の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思 いますか	63.0	63.4
	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持つ たり問題を見いだしたりしていますか	55.0	56.2

⑤課題に対する指導改善の手立て（参考：国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」）

<「地球」を柱とする領域> 地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できること

改善に向けては、地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できるようにすることが大切です。例えば、離れた地点の幾つかの地層を比較したり、ICTや地層モデルを活用したりするなど、地層の広がり方や傾きを空間的な視点で捉える学習場面を設定することが考えられます。

質問調査からは、「理科の内容はよく分かる」「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている」と捉えている生徒が、ともに全国と比較して低い結果となりました。授業においては、日常生活や社会と関連付けて知識を概念として身に付けることができるよう工夫することが大切です。

5 児童生徒質問調査に関する調査結果 (抜粋)

※時間数や頻度等を問う設問以外は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した比率を合計した数値

(単位: %)

	質問項目	小学校		中学校		
		藤沢市	全国	藤沢市	全国	
基本的 生活習慣等	朝食を毎日食べているか	94.8	93.7	92.4	91.2	
	就寝時刻が毎日ほぼ同じであるか	81.9	81.9	78.0	81.0	
	起床時刻が毎日ほぼ同じであるか	90.8	91.0	90.7	92.6	
挑戦心、自己 有用感、幸福 感等	自分には、よいところがあるか	88.6	86.9	85.1	86.2	
	先生はよいところを認めてくれると思うか	91.7	92.2	88.9	92.2	
	人が困っているときは進んで助けるか	93.8	93.7	88.4	90.9	
	人の役に立つ人間になりたいと思うか	96.1	96.4	95.2	96.6	
学習習慣 学習環境等	自分で学び方を考え工夫できていると思うか	80.1	81.7	73.4	77.5	
	平日に学校 以外で一日 どのくらい の時間勉強 をするか	2時間以上	31.1	24.9	45.7	30.8
		1~2時間より少ない	22.8	29.1	24.8	30.8
		30分~1時間より少ない	22.5	27.4	12.3	19.1
		30分より少ないか全くしない	23.5	18.6	17.0	19.0
地域や社会に 関わる活動	地域の大人に、勉強やスポーツ、遊びや体験活動に関わ ってもらっているか	41.8	39.4	29.7	29.5	
	地域や社会をよくするため何かしてみたいと思うか	81.2	81.3	70.7	75.3	
ICT を活用し た学習状況	授業でコンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用したか	ほぼ毎日	34.1	46.7	53.9	53.2
		週3回以上	30.6	25.0	25.7	23.3
		週1回以上	24.5	18.0	15.5	15.7
		月1回以上	8.2	7.2	3.6	5.3
	ICT 機器の 活用につい て、次のこ とはどのく らいあては まるか	文章を作成する(文字・コメントを書く など) ことができる	80.0	81.8	85.6	83.6
		情報を整理する(図、表、グラフ、思考 ツールなどを使ってまとめる) ことができる	65.5	69.3	59.5	63.3
		プレゼンテーション(発表のスライド) を作成することができる	71.6	76.7	76.2	76.6
主体的・対話 的で深い学び の視点からの 授業改善	自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立 てなどを工夫して発表したか	76.4	68.6	76.1	63.0	
	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んで いたか	80.5	80.3	76.8	77.7	
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め たり、新たな考え方方に気づいたりすることができたか	83.7	84.9	84.9	84.7	
総合的な学習の 時間・学級活 動・道徳	総合的な学習の時間では、課題を立て、調べたことを発 表するなどの学習活動に取り組んでいるか	76.5	82.3	78.5	79.5	
	学級活動では、学級をよりよくするために話し合い、互 いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか	77.0	83.3	80.9	84.3	
	道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループ で話し合ったりする活動をしているか	86.7	88.0	92.8	91.5	

6 児童生徒質問調査結果の特徴と考察

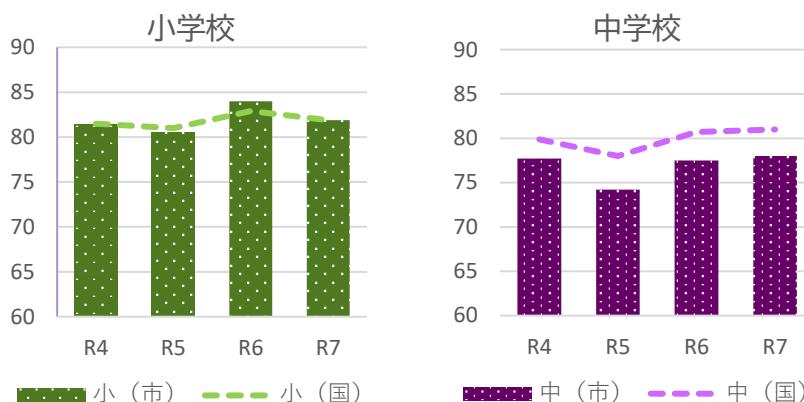
※時間数を問う設問や平均正答率以外は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した比率を合計した数値（単位：%）

参考：国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書」

基本的生活習慣等について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」



特徴

- 令和6年度と比べると、小学校では2.1ポイント下がり、中学校ではほぼ横ばいである。
- 小学校と中学校の結果を比べると、中学校が3.9ポイント低い。

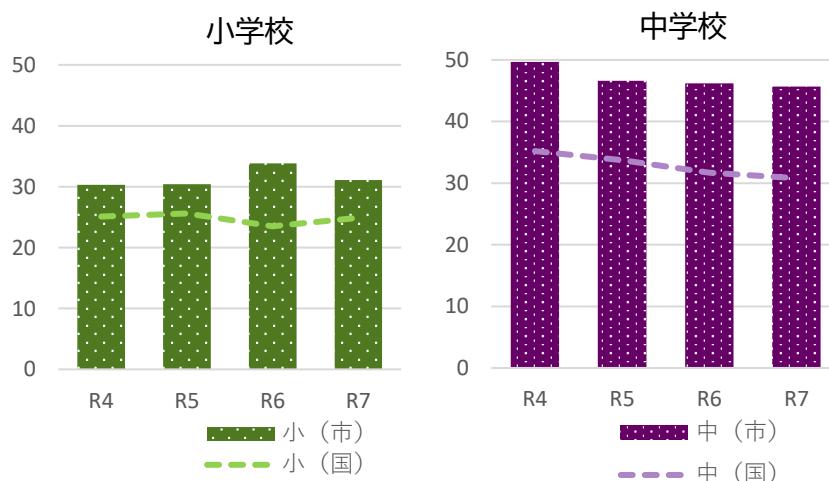
考察

- 中学生では、塾や習い事等により就寝時間が一定にならないことが考えられる。

学習習慣について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問 「平日に、学校以外で一日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾等を含む）」
(2時間以上の割合)



特徴

- 平日2時間以上勉強していると回答した割合は、小学校においても中学校においても藤沢市は全国より高い。
- 小中学校で比較すると、中学校の割合が高い。

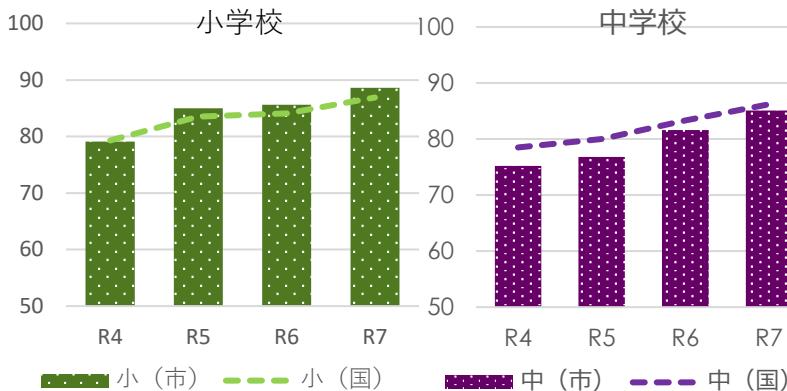
考察

- 中学校の平日の学習習慣については、調査対象が中学3年生ということもあり、学習への意識が高まっていると考えられる。

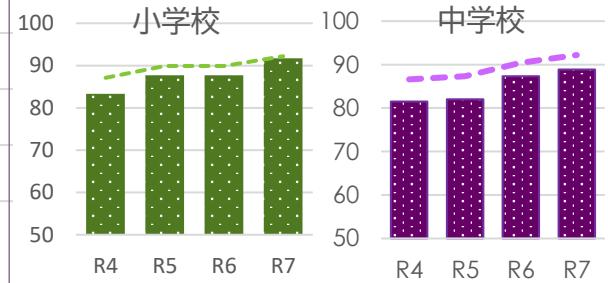
自己有用感について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問 「自分には、よいところがあると思いますか」



※「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（「あてはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合）



特徴

- ・小学校の方が中学校より割合が高い。
- ・小中学校ともに、増加傾向にある。
- ・現在の中学校3年生は小学校6年生の時と比べ上昇している。

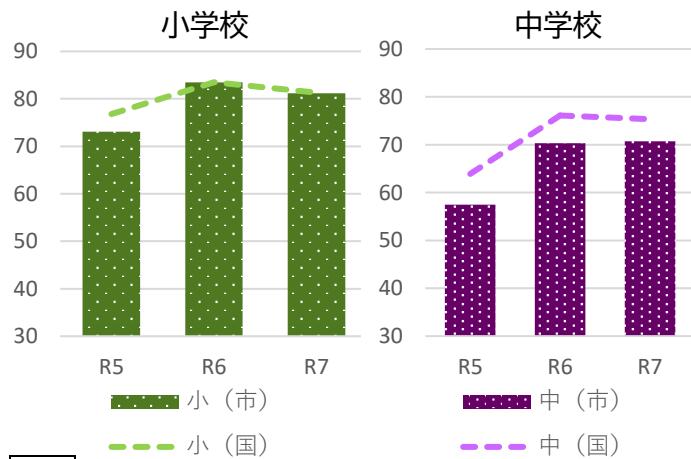
考察

・子どもの自己肯定感については「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒が約9割いることから、教員の声かけが関わっているものと思われる。

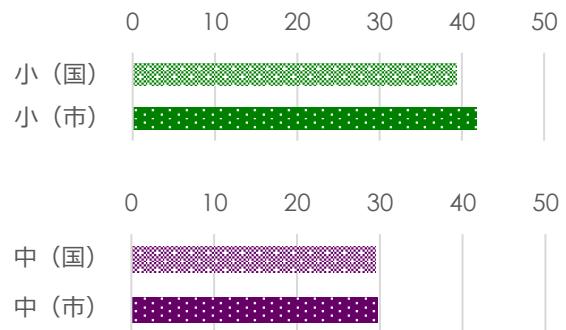
地域社会について

<ふじさわビジョン：かかわりの知>

質問 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



質問 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることができますか」



特徴

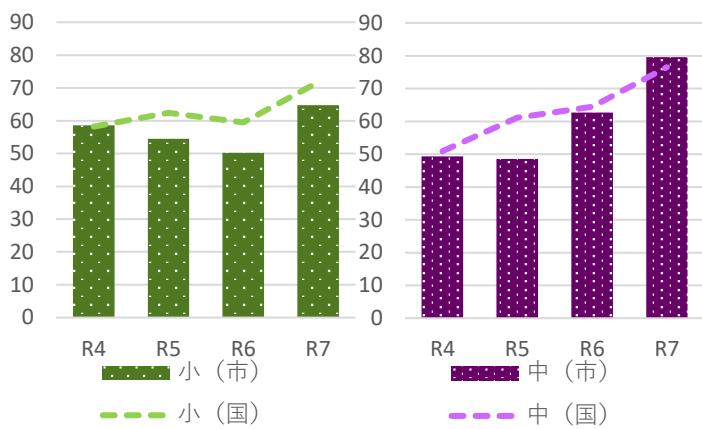
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では約8割、中学校では約7割となっている。
- ・「地域の大人に、授業や体験活動等に関わってもらったり、遊んでもらったりする」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学生より小学生の方が高い。

考察

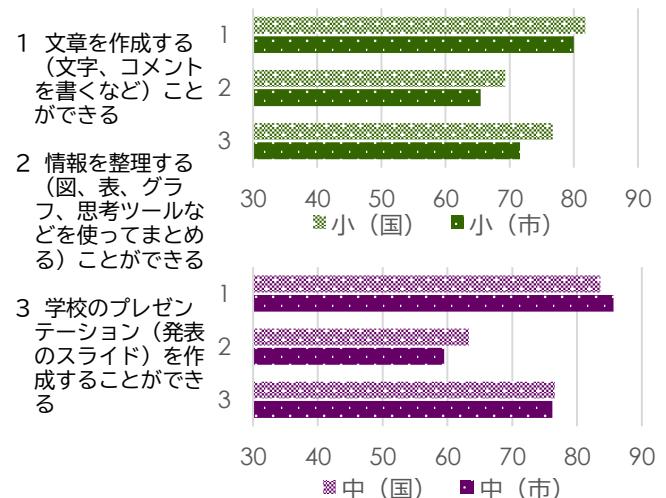
・現行の学習指導要領で掲げる「社会に開かれた教育課程」を踏まえ、各学校、教科の授業や総合的な学習の時間で地域社会とのつながりを意識した取組が行われていると考えられる。

ICTの活用について

質問「授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問に、「週3回以上」と回答した児童生徒の割合



質問PC・タブレットなどのICT機器を使って、次の1～3の事柄に肯定的な回答をした児童生徒の割合



特徴

- 令和6年度から、「授業でコンピュータなどのICT機器を週3回以上使用する」と回答した児童生徒の割合は、小学校より中学校が高くなっている。
- ICTの活用については、「文章を作成することができる」に肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに8割以上である。

考察

- PCやタブレットを使って、文章を作成したり、プレゼンテーションを作成したりする技能は、ある程度習得されていると考えられる。

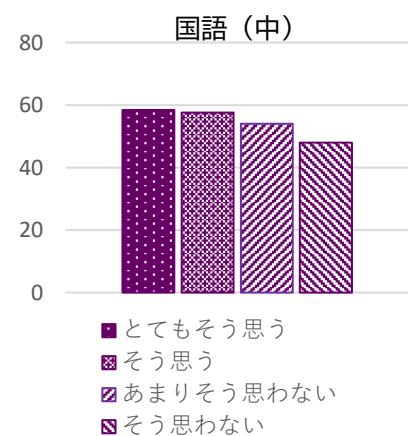
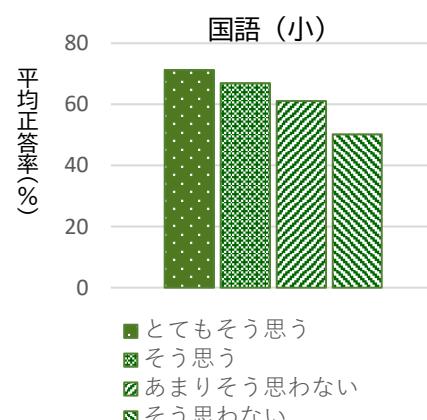
※国語(小・中学校)の平均正答率と、「ICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる」の回答との関係

特徴

- 「ICT機器を使って情報を整理することができる」の回答と国語の正答率との関係を見ると、肯定的な回答であればあるほど正答率が高い。

考察

- 図、表、グラフ、思考ツールなどを使って情報を整理することについては、対象となる事柄・事象などの内容の理解が必要であることなどから、苦手意識がある児童生徒がいると考えられる。

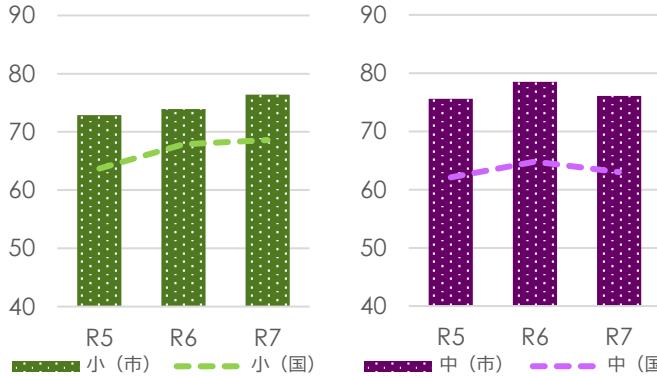


主体的・対話的で深い学びについて

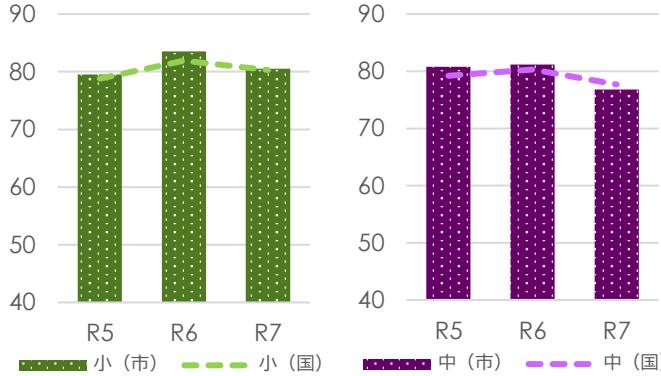
＜ふじさわビジョン「かかわりの知」＞

＜5年生までに受けた授業、中学校1、2年生のときに受けた授業に関する質問＞

質問 「自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」



質問 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」



特徴

- ・小中学校とも、工夫して発表したと回答した児童生徒の割合が全国に比べて高い。
- ・令和6年度から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と回答した児童生徒の割合は、小学校では3ポイント、中学校では4.4ポイント減少している。

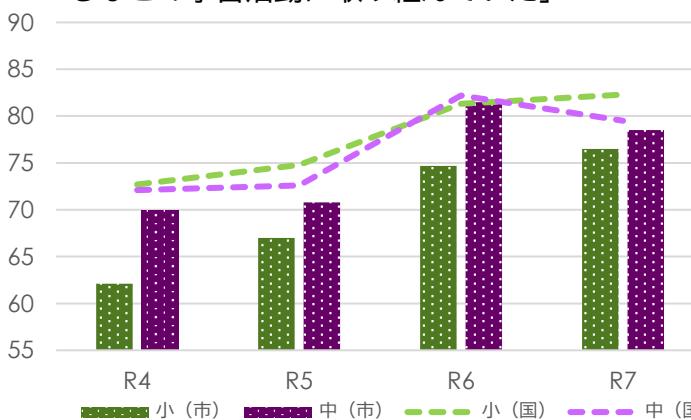
考察

- ・授業の中で、児童生徒が工夫して発表したり、課題解決に向けて自分で考え取り組んだりする場面が設けられていることが考えられる。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」に肯定的な回答が減少していることから、「課題」について、自らの問い合わせを立てることに正面から取り組んだゆえに、苦手と感じた児童生徒が増えていることも考えられる。

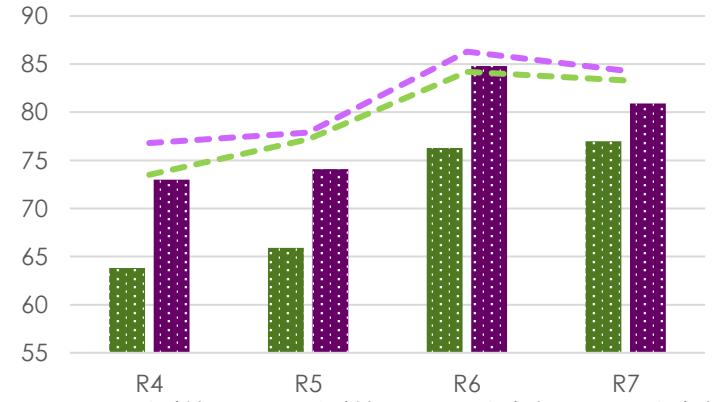
総合的な学習・学級活動について

＜ふじさわビジョン
「状況の知」「かかわりの知」＞

質問 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた」



質問 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするため話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」



特徴

- ・総合的な学習の時間、学級活動に関する質問においては、いずれも小中学校の差が縮小している。
- ・小学校においては、2つの質問に対し、いずれも肯定的に回答している児童生徒の割合が増加傾向にあるが、中学校では令和6年度までの増加傾向から減少に転じている。
- ・いずれも全国値に比べると、若干低い傾向にある。

考察

- ・各学校において現行の学習指導要領で求められる学びを踏まえ、対話的な学習活動や、児童生徒の考えを発表する場面を意識した取組がある程度定着していると考えられるが、中学校において、質の高い対話になっているかどうかという視点を持つ生徒が増えていることも考えられる。

7 今後へ向けて

学校・教育委員会の取組

学校教育ふじさわビジョンの理念に基づき、子どもたちの3つの知を育み、魅力ある学校づくりをすすめます。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」が展開されるような授業の実践へ向けた取組を進めます。

- ・校内研究や学校訪問などを通して、教員の授業力、学級経営力の向上に努めます。
- ・児童生徒自らが問い合わせをもち、課題解決に向けた主体的・対話的な学習活動を通して、読解力、表現力、思考力等の育成に努めます。

(2) 自己肯定感・自己有用感が高まる取組を進めます。

- ・友達や地域の方など様々な人とかかわる活動を通して子ども達の自己肯定感、自己有用感が高まる取組を推進します。

(3) 総合的な学習の時間、学級活動等において、児童生徒自らが当事者として課題の解決に向けて対話し深める取組を進めます。

- ・教員向け研修や学校訪問などを通して、児童生徒が課題や問い合わせをもち、対話を通して深めたり、解決したりする好事例等の周知、啓発に努めます。

保護者のみなさまへ

(1) 基本的な生活習慣を身につけましょう。

- ・睡眠、朝食の摂取など基本的な生活習慣を継続して身につけていくことが大切です。
- ・地域の力になりたいと思っている子ども達が多くいます。子ども達が実際に地域とつながることが、社会参画の第一歩となります。子どもとともに地域の取組に参加するなど、地域と顔が見える関係を構築していきましょう。

(2) 自己肯定感、自己有用感を高めるはたらきかけを大人からもしていきましょう。

- ・子ども達へのちょっとした声かけが、大きな力になることがあります。家庭、地域からも様々な場面を通して自己肯定感、自己有用感を高めるはたらきかけをしていきましょう。